

どの子どもも輝き
笑顔いっぱい
とねがわ幼稚園

よい頭 よい躰 強い体

とね幼だより



令和2年 9月

夏の終わり 2学期のスタート 秋の始まり 園長 笛木 哲

父と娘の会話です。「私のこと好き?」「好きじゃない」「どうして?」「だって**大**好きだから」 その言葉を聞いて娘はとびきりの笑顔になりました。

205名の子どもたちは、それぞれのご家庭で、たくさんの愛情をもらって40日間の夏休みを過ごしてきました。どのような会話を楽しんだでしょう。どのような経験を重ねてきたでしょう。自由に、思い切り、外に飛び出すことができない、いつもとは違った夏でしたが、ご家族と共に過ごした時間は、子どもたちにとって忘れられぬ夏の記憶となったはずです。

2学期(75日間)は、「コロナ」を恐れ、萎縮するばかりでなく、未来を創る子どもたちと一緒に笑顔あふれる充実した毎日をご過ごしてまいります。



R2年度 世界一小きなプール

命を思う

交通事故で脳障害を起こし、意識の回復は無理と思われていた患者が、徐々に何かをつかみ取っていく姿をカメラが追う映像を見ました。植物状態になり、何の幸せも望みもないように見える固い石のような中にも、どこかに引き金が隠されているのです。その引き金を献身的な看護により、探り出そうとする看護師の姿に胸を打たれました。しかし、患者は肉体を固く閉ざします。それが少しだけ柔らかくなったというささやかな反応を喜び、看護師達は可能性を確信します。そして、患者は、唇を震わせ、泣き、笑い始めるのです。廊下からベッドまで、息を詰めるようにして車椅子をあやつり、自分の力で進む患者の姿を看護師たちはじっと見守ります。ついにたどり着くと同時に大きな拍手が響きます。車椅子の上の患者はぎこちなく、しかし喜びがあふれ、目に大粒の涙をいっぱい浮かべます。石のように固まった精神のどこに、この柔らかな心があったのでしょうか。

この映像を見ながら、「命」の偉大さ、「生きていること」の素晴らしさを子どもに伝えること、自分が生きるために他人が生きていることを、やはり同じ重みで尊重できる人間に育てることが私たちの使命だと確信しました。

時として、いじめの萌芽が見られるのが幼児期です。気づかぬうちに、悪いと知らず、友だちを傷つける悪口、無視、物隠し、パンチをするなどが、将来のいじめに繋がることもあります。一人ひとりのかけがえのない「命」「個性」を大切にし、たった一つの命に真摯に向き合い、子どもたちがもつ可能性を広げていきたいと思えます。

新型コロナウイルス感染防止のために

WHO（世界保健機関）は、5歳以下の子どもがマスクを着用する必要はないと、世界に広報しました。理由としては、5歳以下はマスクを適切に着用できないことが多い上、他人に感染させる可能性も他の年代に比べて低い、ということからです。しかし、私たちは、インフルエンザの流行なども含めて、感染予防のためのマスクの着用の意義を認め、これからもマスクの着用を進めて参ります。

新しいクラスが生まれました！

9月1日から『ちゅうりっぷ組』が独立します。これまで5名が年少のクラスで生活していましたが、新入園の7名を加え12名のクラスが誕生します。担任は永井明子。補助は内野裕美。学級目標は『たのしい！ようちえん だいすき♥』 教室はエントランスに入ってすぐ右。元気いっぱいクラスを創ってくれることでしょう。

ことば あれこれ

- 年少の子のお母さんから。「娘は、幼稚園は園長先生のお家だと思っているらしく、幼稚園まで送る車の中で「園長先生はもう起きています？ おうちいる？」と聞きます。帰りに「今日は何した？」と聞くと「園長先生のお家で、おはようした」と。
- 年長の子のお母さんから。「息子は、幼稚園で先生に作ってもらったバンド（仮面ライダーの付けているものの模倣）がとても気に入り、寝ている時も付けているのです」とお聞きしました。作り甲斐あり。作り手冥利に尽きます。そんな彼は独創的な物作りの才能を発揮します。
- 久しぶりにお会いした小学校時代の保護者の方から。「中学生になった息子から『お母さん、クラスみんながスマホを持っているので買って』と、とうとう言われました。『みんなって誰？』と聞くと4、5名の子の名前。『それは皆じゃないし、よそ（の親）が許していても我が家では許さない』ときっぱり言いました。『でも、それじゃあ友だちなくしちゃうよ』と泣き言を言うので、『そういう子は友だちではありません。スマホがあろうが無かろうがお互いに大切に思えるのが本当の友だちです』『これが我が家の方針です』ときっぱり伝えました」とお話しくださいました。まさに、拍手喝采です。こういう親になりたかった（反省）。
- 信用と信頼は違ふと『嫌われる勇気 アドラー心理学』に書かれていました。「信用」は銀行がお金を貸すように何かしらの担保が必要。ところが「信頼」は、信じるに当たり一切の条件をつけない、無条件に信じること、と定義されていました。親が子に示せる愛の証は、まさに「信頼」そのものですね。

